

ティーチャートークと媒介語使用

横溝紳一郎（広島大学大学院教育学研究科）

I. 色々なティーチャートーク

A. リチャーズ・ロックハート（2000:200-201）

- ・ ゆっくり話す
- ・ ポーズを使う（間を空けながら話す）
- ・ 発音を変える（一語一語はっきりと発音する）
- ・ 語彙を変える（難しい単語をより一般的に使われるような単語に変える）
- ・ 文法を変える（文法的に簡単な構造の文を使う）
- ・ 談話を変える（繰り返したり、自分の質問に自分で答えたりする）

B. 岡崎・長友(1991:245-246)

話すスピードを学習者に合った適切なものにする。

語彙や構文の難易度を学習者に合った適切なものにする。

視覚情報を利用する。

- ・ 身振りや手振り、しぐさや表情を利用する、
- ・ 教師、学習者が共通して見ることのできる事物、例えば机や窓の外に見えるものなど、を利用する。
- ・ 図や写真などを利用する。
- ・ 黒板に絵を画く。
- ・ 漢字圏の学習者に対しては漢字を書いたり、英語話者には英単語を書いたり、母語を動員する。

談話上の調整を行う、

- ・ 学習者にとって耳新しい単語や言い回しについては繰り返し聞かせる。
- ・ 一まとまりの話が終わった後、それを要約して項目化したり短い内容のものについては一つ話が進む度に内容を繰り返したりする。

学習者が理解できないという反応を示した場合に適切な対処を行う。

- ・ 分からない単語について別の単語に言い換える、
- ・ 一度言った単語を繰り返す。
- ・ ゆっくり言い直したり大きい声で言い直したりする。
- ・ 単語を区切って発音する。
- ・ 抽象的な単語については具体的な語を並べて例で示す。
- ・ 分からない単語について意味の上で関連のあると思われる類似語や反対語を並べてその語の意味を分からせる。

ティーチャー・トーク = 理解可能なものにするためのあらゆる工夫！

[タスク]

自分のティーチャートークを振り返ってみよう！

[作業 1] 学習者のレベル別の、ご自分のティーチャートークを記述してください。（○=よく使う、△=時々使う、×=使わない）

場所は教室内とします！

	初級	中級	上級以上
そのまま繰り返す			
ゆっくり話す			
大きな声で話す			
一語一語はっきりと発音する			
間を空けながら話す			
難しい単語をより一般的に使われるような単語に変える			
文法的に簡単な構造の文を使う			
視覚情報を利用する			

* 「視覚情報を利用する」を「使う」と答えた方は、以下のどれを使うか考えて見ましょう！

- ・身振りや手振り、しぐさや表情を利用する。
- ・教師、学習者が共通して見ることのできる事物、例えば机や窓の外に見えるものなど、を利用する。
- ・図や写真などを利用する。
- ・黒板に絵を画く。
- ・漢字圏の学習者に対しては漢字を書いたり、英語話者には英単語を書いたり、母語を動員する。

[作業 2] それぞれのティーチャートークを選んだ / 選んでいる理由は何でしょうか？ひとつひとつ考えてみましょう。

II. 媒介語の使用について（学習者の母語を使ってどう教えるか？）

A. 日本語は日本語だけで教えた方がいいのだろうか。（「直説法」が一番いいのだろうか...）

B. 「日本語を日本語で教えたい」と日本語教師が考える理由（特に日本国内で）
---- カイザー（1999：38-39）

- ・ 多くの国々から受け入れた留学生が同じクラスに座っている。
- ・ 教師が外国語を使わなくてもすむ。
- ・ 「教科書には文法の説明が載っている。学生がそれを読んでくれば、説明はいらないし、教室で説明するのは時間の無駄」と考えている。
- ・ 「少しでも多くの日本語を使って早く上達できるようにしてあげたい」と考えている。
- ・ 「世界における日本語の立場を、もっと強化したい」と考えている。

C. 媒介語の具体的使用法

1. 台湾人日本語教師が媒介語を使用する場面（顔 2001:35）

カテゴリー	下位分類	内容
教室管理	教室運営の情報提供	授業の予定の変更や試験の予告、宿題を課すること
	授業の手順の説明	授業内容の予告や説明など
	出席をとること	その時の会話も含む
	授業進行に関する確認	あいさつや指名、授業進行に関する確認など
	基本的な指示	学習者への指示(例:「一緒に」、「次に」、「100ページを開いてください」など)
連帯形成	授業の初めのウォーミング・アップ	授業の初めの自由会話
	リラックスした雰囲気作り	冗談やユーモア
	賞賛や勇気づけ	誉めたり励ましたりすること
内容伝達	単語の定義・説明	単語の意味や用法の説明など
	発音の指導	発音やアクセント、イントネーションに関する説明など
	文法の説明	文法構造や規則の説明など
	言語構造の対照比較	文法項目や構文を扱う際に、日本語との類似点や相違点を説明すること
	表現の用法の説明	会話文などの表現の用法の説明(例:「いつもお世話になっております」の用法の説明など)
	日本文化の説明	日本事情や文化的側面の説明
翻訳	学習内容に関する翻訳	学習内容に関する日本語の母語への翻訳
	教師の説明や指示の翻訳	日本語での説明や指示を母語への翻訳
練習の説明や指示	練習の前のウォーミング・アップ	発表やロール・プレイなどをする前のウォーミング・アップ(例:練習する前に話題に関して話し合う)
	練習の説明や指示	発表やロール・プレイなどの場面・やり方の説明、指示など

	文型練習の語句の提示	代入練習などの語句の提示
学習者へ 質問	学習内容に関する質問	語彙や文法構造,内容などの学習内容に関する質問
	理解度の確認のための質問	語彙や文法構造,内容などの学習内容に関する学習者の理解度を確認する質問
	学習内容以外に関する質問	周辺のことや学習者の個人的なことに する質問
	理解不足の聞き返し	学習者の発話や回答が理解できないときの聞き返し
学習者への 応答	学習者の発話のまとめや活用	学習者の発話を受け入れ,対処したり,その考えを明確にしたり,要約したり,活用したりすること
	学習者の発話の復唱	学習者の母語での発話や回答をそのまま復唱すること
	学習者の誤りの訂正や説明	学習者の誤りを訂正したり説明したりすること
	学習者の理解不足への対応	学習者の反応がなかったり理解が不完全な時に教師が繰り返したり,答えやヒントを提供したりすること
	学習者の質問への回答	学習者の質問への説明や例示
その他	教師自身に関する発話	教師自身の話題や経験談など
	学習内容以外に関する発話	学習のコツやアドバイスなどの学習内容以外の話題について話すこと

2. 台湾の日本語学習者が母語使用を希望する場面（顔2003：76-79）

- ・ 理解できないところがある時
- ・ 授業の内容が難しい時
- ・ 文法・文型の説明

3. 学習者の母語を使用し色々な説明をしていく際に心掛けるべき点（横溝1992：13）

教科書に書いてあることをそのまま繰り返すのではなく、分かりやすく要約したものを使用する。

学習者の目標言語使用の機会をなるべく多く保つために、母語による説明は簡潔にする。

学習者の理解度を確認するため、学習者に質問させる。質問がない場合は、逆に教師側から聞いてみる。

既習事項と新出項目を結びつけ、まとめる。

語源や文化的・社会的背景等の説明を行う際は、その説明と学習項目のつながりを明確にする。

目標言語の発話練習を行っている際に母語による説明を突然始めることは、授業の流れを止めることにつながるので避ける。

4. 文法や文化を分かりやすく説明してみよう！

助詞「は」「が」「を」「も」

丁寧語

終助詞「ね」「よ」

感謝の「すみません」とお土産文化

5. 媒介語を使って日本語の授業をするための条件

学習者全員が共通の母語を持っているか、ないしは特定の言語が共通に分かるか、またはそれに近い能力を有していること

学習者母語や共通語による説明は学習者の理解を深める手助け程度にとどめ、学習者が目標言語に接する機会を十分に保つという授業形態に、教師も学習者全員も同意していること

質問したり、質問に答えたり、簡潔にまとめ上げたりするのに必要とされる、高い媒介語運用能力を、教師が持っていること。

参考文献については、

川口義一・横溝紳一郎著

『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下巻』

（ひつじ書房、2005 年）を参照のこと。